

# 未来を担うゲスト

静岡県立駿河総合高校  
丸子まちづくり協議会



自治会では補いきれない活動を担うまちづくり協議会。一体どのような活動をしているのか？地元の高校生が取材してくれました。

長田西中学校出身の浅野泰杜さんと柿下大樹さんは丸子まちづくり協議会のイベントに参加。運営や課題についても取材をし、意見を述べました。

丸子まちづくり協議会は、福祉、防犯、観光、環境、防災、広報、交通、体育、社会教育の9つの部会からなり、自治会とは異なる組織で住民の困りごとを解決すると説明。移動支援や竹林整備、アマチュア無線部隊の活動などを紹介。協議会が抱える2つの課題について、担い手の確保は「地域を良くしたい若者もいると思う」とSNSを活用した若者へのアプローチや、家族の理解を得るために報酬を提案。一方資金繰りの悩みには、イベントは参加費をつけてもいいのではないかと意見を述べました。まちづくり協議会の存在を知らなかった二人でしたが、取材を通し、活動する姿がかっこいい、参加者の笑顔がよかったと語り、取組発表会を通じ、地域を良くしようと頑張っている方を知らなかった自分が恥ずかしかった、知らないのはよくないので少しでも多くの人に知ってもらいたいと発表しました。

《静岡市 小長谷副市長》  
毎年好評をいただいている企画。今回も有意義な時間となり、ここで得たヒントを持ち帰り、自らの地域で工夫していただくきっかけになればと思います。それぞれの地域がより一層輝き、静岡市全体が暮らしやすくなるようご尽力をお願い致しますと、主催者を代表し、挨拶しました。

《駿河区自治会連合会 坪井会長》  
各地で素晴らしい取組をされていると聞き楽しみです。皆さんの色々な意見や問題について、どのような形で取り組んでいったらいいのか皆さんと一緒に学び語りしたいと思います。今日は一日がんばりましょう、と開会の挨拶をされました。

## 《来場者は全員参加!》

目的は、静岡市内の優れた地域活動から、互いに学び合うこと。参加者は各発表について「質問」や「感想・意見」を付箋に記入。模造紙にまとめ、付箋の内容から各発表者へ質問を行いました。より詳細について理解を深めることができました。



模造紙を埋め尽くす付箋。具体的な方法や資金繰り、人線りの質問も多く、参加者が地域へ持ち帰り、活かそうとする思いが伝わります。

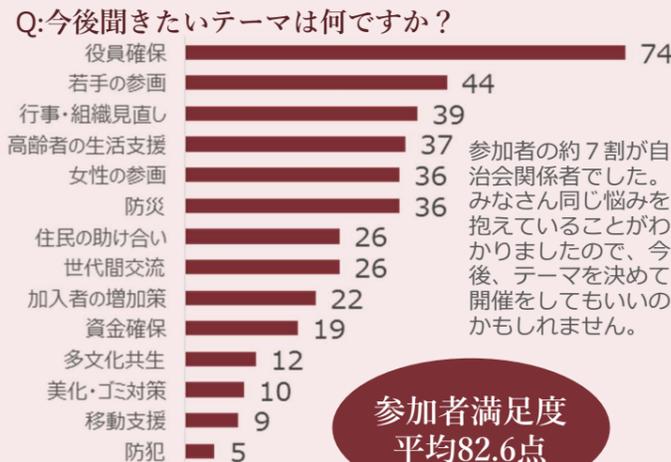
# 顔が見える関係構築を!

《静岡市自治会連合会 瀧会長》  
素晴らしい発表で、参考になることが沢山ありました。牽引力のあるリーダーは大切ですが、日頃から顔が見える関係を作っていく、これができれば何事もうまくいくのだとわかりました。自治会活動はみなさんが頼りです。これからもよろしく願いしますと締めくくりました。



《静岡市市民局 深澤局長》  
素晴らしい事例はもちろんですが、参加者が発表を受け止め、意見を出し合い、みんなで共有できたことが何より素晴らしかったです。ヒントを持ち帰っていただき、市も皆さんと一緒にこれからのまちづくりに取り組んでいければと思います。よろしく願い致します、と述べました。

## 【参加者アンケート】



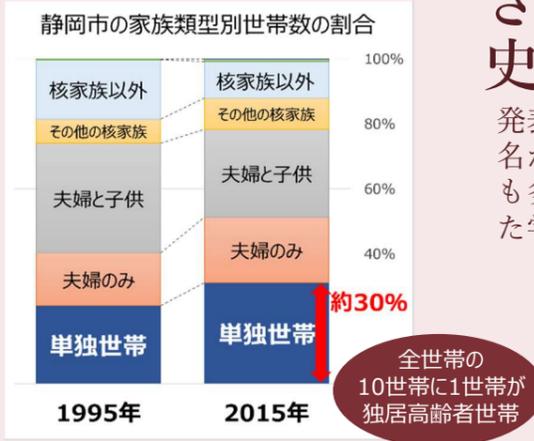
《参加者の感想》  
私も自治会の役員をしていますが、まだまだやれていないと思いました。市内マンション自治会が72もあるんですね。是非情報交換してみたいです。住民意識の変化に対応して、町内会・自治会はもっと変化する必要があることがわかりました。町づくりはまず相手を知ること。続けることが大事だと思います。ただ地域でのやる事は小さくしていく事が今後は必要だと思います。視察できるところには足を運んで、地元の為にも静岡市全体の為にも自治組織が各地で盛り上がっていくようにしていければと思います。自治会が崩壊する時代になっています。もっとも市と自治会の意思疎通を重ねる必要があります。喫緊の課題だと思います。こんなことをやりたい、やれたらと思いつつやれない。それぞれの取り組みはすばらしい。共にやっつけていける人を、賛同し協力する仲間づくりが大切と強く思います。



休憩時には駿河区由来の緑茶と「安倍川餅」や「8の字」が提供され来場者の交流にひと役買いました

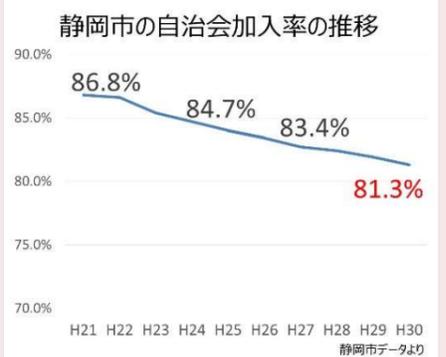
# しずおか自治取組発表会 2020冬

静岡市は全国平均よりも18年ほど早く、人口減少や高齢化が進んでいます。人口が減り税収は減少、高齢化によって社会保障費は増加、公共施設の老朽化も進むことで維持費も増加。今後、市の財政は逼迫し、行政サービスの縮小や補助事業の減少等も予測されます。さらに、単独世帯が全世帯の約3割を占め、家族の形も小さく変化、全世帯の10世帯に1世帯が独居高齢者世帯に。自治会などの地縁組織による地域活動が、住民の日々のくらしやすさに強く影響する可能性が見えています。



## めまぐるしく変化する時代 今、自治会活動に求められることは一体何なのか。市内の好事例から学ぶ!

地域活動の必要性は高まるものの、自治会への加入率は年々減少し、担い手不足や高齢化が問題として挙げられるようになりました。しかし中には活動の見直しや適正化、性別、国籍を超えた活動を行うことで新しい住民自治の形を作り上げている自治会が存在することも事実です。住民のニーズに引き合い、試行錯誤を続ける先進的な自治会の取組内容を知り、情報共有を促進することでより暮らしやすい地域づくりを行うためにこの「しずおか自治取組発表会」を開催しています。



全国各地の先進事例は、立地や慣習、条例が異なるため、たとえ参考にしても徒労に終わることがあります。まずは同じルールのもと、すぐに訪れることができる静岡市内の事例から学ぶことが重要だと考えます。(里山くらしLABO)

## さらに高まる関心! 史上最多162名が参加!

発表会当日は、定員100名をはるかに超える162名が参加をし、大盛況でした。自治会関係者が最も多く、寄せられた質問も現実味があり、充実した学びの時間を過ごすことができました。



「しずおか自治取組発表会」  
令和2年1月26日(日) 13:30~16:30  
場所: 静岡市駿河区役所 3階大会議室  
~当日の次~

- 開会挨拶
- 趣旨説明
- 取組発表等(前半)  
時代が求める自治会活動(瀬名川一丁目自治会) マンションコミュニティと自治会活動 (マークス・ザ・タワー東静岡自治会) 「自治会・町内会ガイドブック」ができるまで (駿河区自治会連合会)  
~休憩・お茶うけ付~
- 取組発表等(後半)  
前半発表3地区への質問、回答  
女性と自治会活動(丸子新田自治会) 「多文化共生」時代に向けて(有東高層団地自治会) 自治会活動からまちづくりへの道 (長田西自治会連合会)  
丸子を楽しめるまちに!(静岡県立駿河総合高校) 後半発表3地区への質問、回答
- 総評

主催: 静岡市(市民局市民自治推進課)  
企画運営: 里山くらしLABO(labosatoyama@gmail.com)  
(人口減少がすすむ中山間地域を主に、持続可能なコミュニティづくりを支援する任意団体。地方新聞46紙と共同通信社が設けている「第8回地域再生大賞」において特別賞を受賞)  
問い合わせ: 054-221-1265(市民局市民自治推進課)

# 全国に誇れる素晴らしい 先進事例が集結！

## 瀬名川一丁目

(葵区西奈南学区)  
906世帯・単位自治会

### 『時代が求める自治会活動』

906世帯、約2700名の単位自治会、瀬名川一丁目自治会では、毎年自治会行事を見直す、できることからやる、役員自らが楽しむ、この3つを約束に掲げ日々無理のない活動を心掛けています。



村松勇男会長と大野彰彦副会長が登場。「先進的な事例ではありません、誰でもできます」と謙遜されましたがまさに多くの自治会が参考にできる今の時代にふさわしい事例でした。

瀬名川一丁目自治会では無料のブログを活用し、役員顔を知らせたり、会計を公開、行事の報告を行うことで若い世代へアプローチしながら、紙面の広報も両立させ、開けた自治会活動を心掛けています。高齢者に対しては自治会費の減免や組長活動の免除を実施。あわせて自治会のロゴや旗を作って、役員自ら活動を楽しむことを大切にしています。背伸びをせずできることから取り組み、長く続けることがコツだと発表してくれました。



一日平均150名もの人が閲覧するブログですが、2007年からなんと13年も運営されています。

とたりぐみ 瀬名川 検索

瀬名川一丁目自治会ブログ : <https://blog.goo.ne.jp/pta247jh>

## 駿河区自治会連合会

約98,000世帯のうち  
約73,000世帯が加入

### 『「自治会・町内会ガイドブック」ができるまで』

静岡市駿河区にある、19学(地)区自治会連合会と227自治会・町内会の活動をサポートする駿河区自治会連合会が、19名の理事とともに作成した「自治会・町内会ガイドブック」について発表をしました。ガイドブック作成後は、様々な問い合わせが減り、効果があったと報告もありました。

駿河区自治会連合会の坪井英明会長が発表してくれました。



## マークス・ザ・タワー東静岡

(駿河区西豊田学区)  
157世帯・単位自治会

### 『マンションコミュニティと自治会活動』

「このままでは有事の際に住民同士で助け合いができないのではないか？」との懸念から、2015年に有志でコミュニティ形成の検討部会を発足し、翌年4月にマンション一棟で単独の自治会を発足しました。



「157世帯ワンチームで活動しています」と自治会長の岡井聖一さんと理事の中山薫さん。役員9名のうち4名が女性でもあります。

主な3つの活動について発表してくれました。1つ目の「防災活動」は、主に訓練と講座、高層住宅ならではの備品資材の購入や管理など。2つ目は交流促進の「サークル活動」で、歩道の花壇造り、kids英語教室、高齢者の集い。3つ目は年間を通じた「11のイベント活動」(クリスマス会、屋上プール遊び、花火大会など)です。2年に1度、住民にアンケートを実施。自治会活動について問い、活動の検証を行います。各活動への住民の巻き込みも丁寧に行い、よりよいコミュニティ形成を目指しています。今後は住民の関係を強化することで防災力を高め、他のマンション自治会との交流促進も行いたいと話しました。

静岡市の全世帯のうち39%が集合住宅に暮らしています。そして、市内にある957の単位自治会のうち72が集合住宅からなる自治会です。集合住宅は、戸建てが集まる自治会とは大きく異なる性質を持っています。より暮らしやすい地域作りには、集合住宅だからその自治会も必要なのだとわかる発表でした。

近年、役員自身が自治会・町内会って何のためにあるのか認識できず、もやもやしたまま運営に携わっていました。会の必要性やメリットをちゃんと説明し、地域に共通認識が生まれればみなさんが意見しやすく運営が円滑になります。自治会活動には決まりがなく地域の環境にあったやり方で運営することです。ガイドブックにはそのヒントがあります。今後も変化する地域の課題をとらえ、時代に合った内容で改定していきますと語ってくれました。



## 丸子新田

(駿河区長田東)  
1,030世帯・単位自治会

### 『女性と自治会活動』

静岡市内の女性自治会長は31名、全体の約3.2%にすぎず、全国平均よりも低い値です。福元会長は数年の役員を経て、会長に就任し6年。自分らしさを大切に顔が見え声が聞こえるまちづくりを目指しています。

前例がなかったため失敗してはいけないという思いのもと会長を務めさせていただきましたと、福元禮子会長が発表してくれました。

様々な工夫をこらし、各行事への住民参加を促し、防災訓練には500名以上が集まるようになりました。写真はまるで決起集会のようですがと語り、会場から笑いもあがりました。



最初に自治会の運営方針を決めて「行事を通して人とつながる町」の実現を目指しました。各行事の狙いを明確にすることで参加率をあげ、町民アンケートに基づいたフリーマーケットや、子どもを中心に据え保護者の交流も促進できるレクリエーション大会なども新規実施。行事の広報チラシは全面に大きな文字で参加してほしい気持ちを明記し高齢者や忙しい人が見落とさないように工夫。さらに当日、広報車で呼びかけも行っています。少子高齢化時代は、女性が活躍できる分野が多岐に広がりを見せています。女性の積極的な意識改革を行いながら、成功体験を重ね、女性会長が当たり前になっていけば、「女性」という冠が取れる時代がやってくるのではないのでしょうかと発表をしました。

## 長田西自治会連合会

(駿河区)  
4,834世帯

### 『自治会活動からまちづくりへの道』

近年、全国的に自治会とは別に、地域の課題解決を目的とする地域運営組織が設立されるようになってきました。静岡市内で先進的な取り組みを続ける丸子まちづくり協議会設立の経緯を発表しました。

10年間自治会連合会会長を務め、自治会長ではない有志でも地域課題を解決できると知った。一年交代の自治会では優秀な人材を活かしきれないため、清水区の事例を参考にまちづくり協議会を設立することになりました。長田西自治会連合会の村松勝美会長のもとには市外や県外からも、まちづくりの視察に多くの関係者が訪れています。



## 有東高層団地

(駿河区富士見学区)  
60世帯・単位自治会

### 『「多文化共生」時代に向けて』

有東高層団地は、入居者149名のうち約4人に1人の36名が、8か国から来た外国籍住民です。毎月の定期清掃には半分の住民が出席し、外国籍の方も参加。役員には外国人の方もいます。

外国人を嫌われないで怒鳴らないでください。外国籍の小さなお子さんに「かわいいね、今いくつ？ふたつ、みつかな？」と、ほめる声かけから始めてくださいと有東高層団地自治会長山田勝久さんは多文化共生のコツを語りました。



生活環境が異なるのでルール違反もあります。読み書きが苦手なので日本語だと読んでもらえません。日本語、英語、中国語に訳し、必要なら他言語でも掲示をします。災害時の助け合いのために、住民アンケートを実施。班長の中には高齢者や外国人住民のために、各戸を回って聞き取りをしてくれた方もおり、結果、回収率は約98%。通訳や医療、介護従事者など有資格者が沢山いることもわかりました。ルール違反は外国籍住民だけではありません。多文化の次世代の子供たちに、間違ったことを教えないでくださいと伝えています。今後は子どもから高齢者まで集えるサロンや、住民の仲間意識醸成のために、団地まつり、有事の際の車いす避難訓練などを実施予定だと話してくれました。



課題も多かったが、自治会は行政とのパイプ役、まちづくり協議会は住民の課題解決と、役割分担を明確にし、上下はなく、まちづくり協議会ですすでにやれている人材を活用することに専念。結果、丸子の評判も高まり、地域住民で支え合おうという雰囲気が出来上がってきました。

大変な時代になってきた。前例のない世の中環境を良くするには、前例のないことで対応していくしかない。地域がやらずして誰がやるのか。今まで以上に地域と行政がまとまらなければ、解決はしないだろうと話してくれました。

